

# 新任保育者における1年間の園内研修を終えて

仲野 悦子・金武 宏泰\*

## A program for new nursery school workers in their first year of employment

Etsuko Nakano Hiroyasu Kanetake

### 要旨

この研究は、新任保育者6人に対して保育指針に基づいた100項目の研修項目に添って計画的・継続的に短時間で実施された園内研修を紹介する。初めて保育者として職場に入り、試行錯誤しながらも懸命に学ぼうとした新任保育者の1年間の実践記録から、保育者の育ちや研修のあり方に焦点を当てて考察する事を目的にする。今回は、第1期の研修内容「保育士としての基礎・基本的知識や考え方の理解」を日々の保育実践に活かしながら、そのまとめとして公開保育を行った第2期・第3期の研修を検討する。そして、1年間の研修を終えた新任保育者の自己評価から、園長や主任保育士などから子ども・保護者対応・職員の連携など多くのことを学んだ事が伺える。しかし、まだ多くの課題も出てきた事を理解している。2年目に向けて、自分の個性を活かした保育を目指して新たな気持ちで取り組んでいる保育者の成長の姿の裏に、指導者の役割の大切さも確認した。

キーワード：新任保育者    園内研修    資質向上    熟達化    保育者支援

### 1 研究目的

保育職として職員の資質向上を求めて実施された新任保育者の研修の実際から、保育者自身が得た多くの学びを読み取る事ができる。この研究は、1年間の新任保育者の実践記録のなかから、保育者の育ちや研修のあり方に焦点を当て考察する事を目的にする。努力義務として投げかけられた保育者の資質向上の為の一つの園内研修の取り組み事例から、園内研修のより良いあり方と工夫を検討したい。

新任保育者に対する研修として、4月当初から新任保育者向けに実施されている初期(第1期)の研修の実際を紹介してきた。<sup>(注1)</sup>今回は新任者対象の研修会を定期的に短時間の中で実施しながらも、具体的に理論を保育に活かすための公開保育を実践していった第2期、第3期の新任保育者の成長の姿を見た。そして、1年間の新任保育者としての育ちの姿を、実践記録を通して検討していきたい。「保育者として育つということはどういうことか」、「保育者の資質の向上させるための環境づくり」、「園長をはじめとするリーダーの役割」など、子どもの育ちと共に保育者のより良い育ちのための援助など保育者の育ちや支援にも多くの目を向けていかなければならないと考える。

---

\* 蘇原南保育所

## 2 研究方法

新任保育者を対象とする OJT 研修 (on the job training) について具体的に論述する。この研修は、園長の責務として保育所保育指針に基づいて計画的に実施されている研修である。新任保育者は研修から得た具体的な知識や情報を基に、子どもに対して意識的な関わりや積極的な働きかけを行った。子ども達だけではなく保育者自ら成長していった姿を、1 年間の新任保育者の研修実践報告や自己評価からも読み取る事ができる。

### (1) 実践園について

K 保育所は、平成21年度 4 月より中部・東海地域にある公立保育所から民営化された施設である。職員の平均年齢は32歳、保育経験年数の平均は 5 年である。園長・主任保育士以外12名の中で半数の 6 名が養成校を卒業したばかりの保育の経験がない新人保育士である。<sup>(注2)</sup> 園長は、「6 名の初任者が保育士としての社会的な責任を自覚し、専門職として自己研鑽に努めることは本保育所の発展にとって重要な課題」としてとらえ、保育士としての基礎・基本的な考え方を理解すること (第 1 期) から一人ひとりの公開保育を実践するまで、1 年間を 3 期に分けた研修計画を立て実践してきた。

### (2) 研修理念

- 1) 保育士が協働して生き生き楽しく意欲的に研修に取り組む。
- 2) 本保育所の実態に即した具体性のある研修内容で、即実践できる。
- 3) 保育所保育指針を踏まえる。(保育所保育指針を基に100項目の研修内容を定める)
- 4) 保育士としての資質向上を自ら図る。
  - ① 研修内容の実践できる具体例は自ら見つける。
  - ② 実践して成果と課題を保育士自らまとめる。
  - ③ 保育士の研究成果を日常保育に自ら取り入れる。

### (3) 研修形態

- 1) 研修の目標 **【誰からも信頼される保育士をめざす】**
- 2) 研修の方針

- ① 子どもの最善の利益と人権に考慮した保育を行うための倫理観、人間性及び保育士としての職務及び責任の理解と自覚を高める。
- ② 保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高めるとともに保育実践や保育内容に関しては本保育所保育士の共通理解を図り、協同性を高める。
- ③ 保育士同士の信頼関係、保育士と子ども、保育士と保護者の信頼関係を形成していく中で、常に自己研鑽に努め、保育士としての喜びや意欲を高める。

#### 3) 研修計画 (第 1 期～第 3 期までの研修テーマ)

##### 第 1 期 (4～7 月)

保育士としての基礎・基本的知識や考え方を理解する。

(見る、聞く、経験する)

\* 毎週 1～2 回 午後 1 時30分から45分程度

(毎日の保育の中で共通認識を持つため保育内容や保育姿勢などを確認)

##### 第 2 期 (8～11 月)

保育活動の楽しさ・生きがいを見つけて積極的に取り組む。

(知識を深める、多種多様な活動を進んで体験する)

\* 公開保育 3人1組になって公開保育<sup>(注2)</sup>

第3期(12～3月)

保育士として自らの資質向上に努める。

(自らの課題をもち、課題解決に積極的に励む)

\* 公開保育 1人ずつ指導案を立てての公開保育

#### 4) 研修方法

① 初任者研修会として、毎月2・3回実施する。(指導者; 園長・主任保育士)

② 職員会の議題に適宜初任研修を入れる。(指導者; 園長・主任保育士)

③ 所属クラスのなかで研修する。(指導者; クラスリーダー保育士)

④ 個々の保育士ごとに実施する。(指導者; 園長・主任保育士)

### 3 結果

#### (1) 第2期及び第3期の園内初任者研修内容(表1)

第2期及び第3期の具体的な研修では、保育内容として行事(運動会・おひさまこ発表会)に向けての具体的な内容検討や準備作業の確認、新任者自身の公開保育に向けての指導案の検討、けがの対応、環境整備として気をつけることなどが含まれている。保育姿勢としては日頃の保育活動における注意点などが再度確認されている。

#### (2) 第2期における個々の保育者の学び

##### 1) 保育実践記録(表2 A～F実践記録)

6人の保育者が研修した内容を具体的に日頃の保育の中で子ども達に実践した記録である。保育の方法、子ども対応、保護者対応など大きく3つに分類する事ができる。研修で受けた内容を、具体的に実践の中で確認した学びでもある。学びの中には、先輩保育者の保育実践から多く学んでいることが理解できる。そして、自らも研修で受けた事柄を積極的に実践した結果得た学びも多くあった。これらの学びを導き出された要因として職員同士のかかわりが大きい。様々な課題に対して指導された相手(解決対象)として先輩保育者・自己・園長・新任者仲間が上げられていた。

##### 2) 1年間の研修結果(表3)

1年間の研修に対する自分の振り返りをまとめたものである。職務姿勢や職務内容など具体的に学んだ事をまとめてみる事でよりいっそう学びを確認できたようである。保育における具体的な姿勢や方法を積極的に実践することで、子どもから「先生ありがとうね」という言葉を聞く事ができたことなど、少しずつ子どもや保護者との信頼関係を築いていった事が窺える。

##### 3) 自己評価からみた研修内容(表4)

園長が保育所保育指針に基づいて100項目の評価内容を設け、その項目に従い園内研修内容が実施されている。その研修項目に対して新任保育者が自分の1年間の保育活動に対してそれぞれ3点を持ち点として自己評価した結果である。18得点(25項目)、17得点(19項目)、16得点(17項目)、15得点(5項目)、14得点(9項目)、13得点(16項目)、12得点(3項目)、11得点(3項目)、10・7・6得点がそれぞれ1項目ずつとした結果となっている。自分として充分理解できた項目が25項目あり、日常の園児との関わりの中で実践できた内容である。充分ではないが理解した項目も全体的に多くあり、自己評価としては高い結果となっている。低い評価としては、

表1 第2期(8~11月)園内初任者研修 **信頼される保育士をめざして**

第2期研修テーマ： 保育活動の楽しさ・生きがいを見つけて積極的に取り組む

(知識を深める、多種多様な活動を進んで体験する)

研修項目		研修内容
職務 内容	運動会について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リレーについて⇒名前を呼んだら返事する。(新任保育士が名前を呼ぶ)</li> <li>・9月の新人保育士による公開保育は”げんきっこ体操”に決定。遊戯ではなく体操ということを意識する。</li> </ul>
	<事前>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操を指導する時、その日のねらいを決めて行う。</li> <li>・体操する時、筋肉を使うことを意識。見本となるよう手の動き・伸ばし・足の開き方などに気をつける。</li> <li>・体操を指導する時、指示用語を決め言葉掛けに気をつける。(口調ははっきりとする)</li> <li>・整理体操(親子の触れ合い、フィナーレ)お別れのセレモニー。”地球リズム”に決定。司会・親・子ども役に分かれて進めていく。来週の朝の会から始めてみる。以上児の年長と年少がペア。年中同士がペア。回る時など「1・2・3・4」など単純な説明で分かりやすくする。</li> <li>・お茶はペットボトルを保育所から渡す。(来年からは水筒持参)</li> </ul>
	<当日>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会は黒か紺のジャージ(ジャージ支給あり。遠足は全員揃える)</li> <li>・当日はサンバイザー・帽子・タオル・日焼けカバーは使わない。日焼けが心配なら長袖を着てくる。当日は指定の白Tシャツに黒ジャージで揃える。エプロンはつけない。朝8時に門を開ける。</li> <li>・国旗張り、ロープ張り、テント張り、入場門設置、北入り口から器具だし、長机・椅子だし、全体の掃き掃除、石取り、外回り掃除を行う。</li> <li>・未満児のお土産に名前を記入する。</li> </ul>
	<事後>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にこやかに楽しんで進めて行く事ができた。</li> </ul>
	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器具だし・線引きなど担当を決めたことで、具体的な作業が把握できスムーズにできた。</li> </ul>
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が予想以上に遊戯に参加できた。</li> <li>・サンサン体操の着替えに手間取った。</li> <li>・プログラムの順番を把握しておくべきであった。</li> <li>・もっと余裕を持つと、親との対応も笑顔でできると思った。</li> <li>・技術的にすばらしいと思ったら終わり。これからどんどん向上していけないと駄目。他の園の運動会を見に行くなどして自主的に勉強するようにする。</li> <li>・地道な活動のなかに、ちょっとしたチャンスがあったらその時間を保育技術の向上に活かす。</li> </ul>
	おひさまっこ発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現重視。文化ホールにて技術を高めた発表を行う。</li> <li>・オープニングセレモニーは参加者全員ステージの上に上がり歌を歌う。オープニングを新人保育士の公開保育のテーマとする。フィナーレは以上児を中心とした歌を歌う。(3・4歳が歌える歌を選ぶ)出し物を11月末までに提案する。</li> <li>・他の園に行き、遊戯を見るなど勉強する。</li> </ul>
	避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震による避難訓練(8月25日)放送で音を流すので机の中に隠れる。頭を隠すなど指導していく。</li> </ul>
保育 姿勢	けがの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0~2歳児はけがをしやすい年齢である。けがをした時は園長・主任・担任に報告、ファイルに記入する。親の願いは健康、安全に……。先を読んで行動する。</li> <li>・親への対応として、けがの報告は確実に行い謝罪する。園で起こったけがは園側の責任である。</li> <li>・休憩交代など人のクラスに入る時は目を光らせてけがを防ぐ事に注意を払う。</li> <li>・遅番でおきたけがは、次の日担任に報告する。</li> </ul>
	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出すおもちゃの量を園児の人数を見て判断する。未満児は滑ったりして危険である。以上児は時間を見計らって飽きたら入れ替えるなどして対応する。</li> <li>・次亜塩素酸は最後に部屋に振りまき消毒し、余ったら捨てる。容器は職員室に持って行き、朝番担当が入りやすいようにしておく。</li> <li>・遅遅番の時、次の日の準備をする。(トイレのマット、お絞り・お便りかごなど)</li> </ul>
	研修(公開保育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未満児、以上児で次年度担任を持つこともありうる。情熱・愛情・技術(保育能力)を高める。どれ一つでも欠けてはいけない。</li> <li>・18~19日にわたって以上児合同(異年齢児保育)の研修を行う。場所は遊戯室。時間は30分。内容は各自決める。アシスタントはなし。</li> </ul>
	日常の保育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大勢の子(集団)に指導をする。常に子ども達みんなに目を向けて保育するように心がける。</li> <li>・一部の子だけを抱え込むのは好ましくない。他の子は、心の中に寂しさや羨ましさがある。</li> <li>・集団での活動を意識する。</li> <li>・遊びの中でルールや規則を教える。</li> <li>・やっではないいけないことを何度か注意するのではなく、保育士の対応や指導の仕方で子が変わる。</li> <li>・お昼寝時は横になってはいけない。常にみんなを見て保育する。</li> <li>・10時~15時までは目的ある遊びを行う。規則と約束を持つ工夫した遊びをさせる。</li> <li>・立派な保育活動をするためには→立派な保育士が行う。</li> <li>・保育活動の楽しさや生きがいを見つける。</li> <li>・普通保育に担任が専念できる環境作りを行う。</li> </ul>
その他	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンのウイルス対策を徹底する。</li> <li>・保育士自らの心身の健康に注意をする。</li> </ul>



表2 A～F 実践記録

実践記録A

月	内容	課題(疑問点)	解決対象	学んだこと・気付かされたこと
8	保育方法 (表現力の向上)	集中させるための手遊び 手法(1歳児)	自己	・子ども達にとって身近なものが登場する手遊び(アンパンマン・動物)に興味を持つ。 「 <b>保育士が手本となるような分かりやすい大きな動作をする。日々の繰り返しの大切さを学ぶ</b> 」
		絵本の読み方(1歳児)	保育者	・保育士の絵本の読み方次第で子ども達の反応や聞く姿勢などが大きく変わる。 「 <b>工夫する事により子ども達との一体感が生まれ、いきいきとした絵本の世界となる</b> 」
9	保育方法 (読み聞かせ方)	集中力を高める工夫 (3歳児)	自己	・給食の準備時間の2冊の絵本の読み聞かせの工夫として、間に手遊びを導入して次の絵本に興味を持たせながら子ども達の集中力を維持する。 「 <b>集中力を保つための絵本の読み聞かせに工夫が必要である</b> 」
	子ども対応	寝て育てる(2歳児)		・どのようにしたら保育者の話を聞いてくれるのか、やみくもに叱るのではなく、何故いけないのかを話したり、できている子を褒めてみる。 「 <b>子ども達の良いところを沢山見つけ、さらに伸ばしていく保育が大切である</b> 」
10	保護者 対応	保護者とのコミュニケーション (0歳児)	保育者	・保育者がお迎えの保護者に今日の出来事や子どもの様子をこと細かく伝えることにより、うれしそうに安心した様子で聞いていた。 ・子どもの悩み話を聞いた保育士は、安心するように笑顔で対応していた。 ・挨拶だけではなく子どもの様子やその日の出来事を、自分から笑顔で話すように努力すると保護者も笑顔で返ってくる。 「 <b>保護者とのコミュニケーションをとおして信頼関係を築く</b> 」
	子ども対応	保育士はムードメーカー (2歳児)		・運動会種目「サンサン体操」に興味を持って踊るようにするために、意欲的に掛け声を大きな声で言う、分かりやすいように手足を大きく曲げたり伸ばしたりするなど、無理に踊らせるのではなく自分自身の姿勢を見直すことによって徐々に興味を持って踊るようになった。 「 <b>保育者が常にお手本である</b> 」
11	保育方法 (記録の重要性)	異年齢児保育の取り組み (以上児合同)	自己	・決められた保育設定(対象:以上児約60人、時間:30分、場所:遊戯室)の中で進める保育指導を検討した結果、導入;マジックに関係した絵本、展開;手品とし指導案を書く。指導案をかくことによって活動の手順がイメージできた。 「 <b>指導案を書くことの大切さを理解する</b> 」
	子ども対応	噛みつき(1歳児)		・遊んでいるときでも絶えず全員を見渡し保育する。噛みつきのタイミングが理解できるようになる。 ・1歳児は思いを言葉で伝えられない分保育士が子どもの思いを受け止める事が大切である。 「 <b>安全に配慮した保育者の立つ位置・子どもの思いを受け止めた保育の大切さを学ぶ</b> 」

実践記録B

月	内容	課題(疑問点)	解決対象	学んだこと・気付かされたこと
8	保育方法 (水遊び)	水に慣れる工夫 (プール遊び)	保育者	・実際に顔をつける見本を見せたり、言葉がけを工夫する。 ・苦手な事に挑戦している子に対し、応援する心が育っている。「頑張れ!」は魔法の言葉である。 「 <b>状況や子どもの性格に対応した言葉を臨機応変に選択する。</b> 」
	子ども対応	喧嘩の仲裁		・子どもがわがままを言う時、泣く時など子どもの行動には全て理由があるため、それを理解し受け入れる。年齢によってわがままも大切である。 「 <b>どんな時でも子どもの気持ち聞き、受け止めた保育であること。年齢にあった指導が大切である。</b> 」
9	保育方法 (指導案の書き方)	公開保育に向けた指導案	園長	・テーマ;運動会の準備体操(対象:以上児約60人、時間:30分) ・指導内容;このような力をつけたいという願いや活動内容であること。導入ー展開ー終末の流れのなかで子ども達の姿を予想し、それに見合った保育士の配慮事項を明確に書く。 ・子ども達の姿の把握不足、年長児に対して期待しすぎる内容であったりした。 「 <b>異年齢児を対象にした指導案の作成の難しさ。年齢にあった指導案の書き方の検討や工夫</b> 」
	子ども対応	集中させる為の方法	保育者	・言葉をはっきりさせる、メリハリをつけて話す。 ・集中できる導入方法、状況に応じたパフォーマンスの導入。 「 <b>毎日の保育のなかで経験者の保育指導から多く学ぶことができる</b> 」
10	子ども対応	一人ひとりに寄り添った保育	保育者	・遅番の時間になると、ちょっとした事で泣くようになった子どもへの対応。家庭では特になかった事がないとのコメント。兄弟の真ん中で甘えられず我慢しているのかもしれない。 ・保育所において甘えられる居場所を作る(声をかける、一緒に遊ぶ、抱っこをする、所内を散歩する) ・お迎えの時間に母親と話す時間を少し多くする。 「 <b>言葉で上手く表現ができない子ども達であるが故に、保育士が気持ちを読み取り声をかける</b> 」
		危機管理 (散歩への配慮)		・危険な場所(子どもの高さに障害物がある場合)を知らせ、危険な場所に保育士が立つ。 ・散歩に出かける時など、車が来たときはすぐに子どもを止め白線が一番奥に行くように促す。 ・子ども同士の間の空けを空けない。 ・いつも散歩する道や場所であっても、前日に危険を知るために自分たちで下見を行う。 「 <b>危険はその日によって違ったり目が行き届かないときもある。周りの状況から臨機応変に対応する</b> 」
11	子ども対応	喧嘩の仲裁	保育者	・年長児のルールを守れない事で喧嘩仲裁に出会う。(ルールを聞く→守れなかった理由を聞く→どのようにしたらよいのか聞こう→新たなルールを話し合う→お互い納得いくまで話す) ・自分で同じように対応した結果、子ども達同士で解決していく姿が見られ、最後に解決すると「先生ありがとうね」の声を聞く事ができた。 「 <b>子ども達の成長を促すための方法を学んだり、どんな遊びをしているかを把握し自分から実践してみる</b> 」
	保護者 対応	保護者との接し方		・保護者との信頼関係を築く。(笑顔で話す、親身になって話を聞く、分かりやすく保育所での様子を話す) ・相談事などを真剣に聞き、その解決策と一緒に考えたり、保護者の気持ちになって提案したりしている。 ・遅番での様子をなるべく話すようにすると、保護者から家での様子を聞く事ができた。 「 <b>保育所だけではなく家庭の様子も含めた子ども理解の為に保護者との関わりを大切に</b> 」

## 実践記録C

月	内容	課題(疑問点)	解決対象	学んだこと・気付かされたこと
8	保育方法 (短時間 保育)	5分間の保育力向上の 試み	保育者	・短い空き時間に絵本を読んだり、季節の歌と一緒に歌ったり、手遊びをしてみたりするなどして子ども達と少しでも多くコミュニケーションを図る。 「 <b>短時間における有効なコミュニケーション方法を工夫する</b> 」
	子ども 対応	係りとしての役割 (プール開き・納め)		・絵、ボード、クイズを利用した分かりやすいマナーや約束事の説明方法や「魔法の水」を使った楽しいプール遊びへの導入方法の仕方。 ・責任を持つての水の管理を行う。 ・プール納めの司会進行としての流れの中で、「頑張った」ではなく「楽しめた」かと問うなど、自分の思いを子ども達に伝えるための表現方法などを考える。 「 <b>理解しやすい言葉がけや道具を利用した表現方法などを検討する</b> 」
9	保護者 対応	保護者との関わり	自己	・顔を見て、全ての人に気持ちのよい挨拶を心がける。(保護者、職員、地域の人々) ・挨拶だけでなく、子どもの様子を伝える。 「 <b>日常生活のどんな些細の事でも保護者に話しかけ、関わりを築いていく</b> 」
	子ども 対応	喧嘩の対応(休憩交代 時の以上児での出来 事)		・自分の思いを口に出す事が難しく手を出してしまう子に対して「ごめんね」と言えるように伝える。 ・自分のクラス(2歳児)では喧嘩の際すぐに間に入ってしまう。 「 <b>大きくなるにつれて自分たちで話し合ったり、解決したりする事ができる。見守ることの大切さを知る</b> 」
10	子ども 対応	0歳児の対応 (1か月間1時間の研修)	保育者	・ミルクの作り方(肌の薄い敏感なところで温度を確認、水で冷やすときの方法など)時間や量など)、オムツの替え方、掃除する時の配慮(掃除機を持つ、コードを踏まないようにする)、午睡の時間など個人特徴を覚える。 ・子どもから離れない、幅広い視野を持ちそれぞれの子どもの居場所を確認。先を見た保育に心がける 「 <b>一人ひとりにあった対応、個人記録の大切さ、保育士の子どものための愛情、臨機応変に素早く行動する対応の仕方を学ぶ</b> 」
		意欲を引き出す	自己	・「お片づけしないとおやつないよ」 → 「お片づけをしたら美味しいおやつを食べようね」「○○ちゃんかっこいいね」「誰が早いかなー！ヨーイドン！」と駆け引きする言葉からやる気を出す言葉がけにしたり、絵本屋さんに変身したりするなど工夫をする。 「 <b>子どもたちがやろうとする意欲を引き出ししていく言葉がけや方法を工夫する</b> 」
11	子ども 対応	信頼関係	自己	・子ども達は「自分の話を聞いてくれる」、「自分のことを見ていてくれる」保育士が大好きである。 「 <b>信頼関係を築いていくために普段の生活における会話から大切にしてい</b> く」
	保育方法 (公開 保育)	手遊び	保育者	以上児対象、得意とするテーマ(手遊びとダンス)を選び、指導案を作成し保育を行う。 ・自分のやりたいことを押し通しすぎて、子ども達がリラックスできたり、考えたりする場面もなくメリハリもなかった。 ・自分が考えていたく予想される子どもの姿>が、はるかに予想を超え焦ってしまった。 ・自分の勉強になった。 「 <b>日頃の保育のなかで、子ども達をひきつける力をつけていく</b> 」

## 実践記録D

月	内容	課題(疑問点)	解決対象	学んだこと・気付かされたこと
8	子ども対応	安定と安心 (0歳児;泣いている子ども)	保育者	・抱っこをして歌を歌ったり、体を揺らしたりした結果、不安そうな顔が段々と笑顔になった。 ・人数の少ない事や一人ひとりと関わる時間が多い分、それぞれの子どもの特徴やくせなどを知っておく事の大切さを改めて知る。 「 <b>自分自身が焦らず、子どもが安心できるような関わり方をする</b> 」
		防げる怪我 (0歳児;広い視野)		・広い視野を意識しながら保育をしていたが、斜め後ろの子どもに気づかず防げる怪我をさせるところであった。 「 <b>もっと広い視野持ち、目先の事ばかりではなく、先に予測して怪我などを未然に防げるようにしたい</b> 」
9	子ども対応	喧嘩の仲裁	保育者	・寝番の時間、指導者の喧嘩の仲介場面を思い出し対応する。 「 <b>むやみに注意するのではなく、双方の子ども達の思いを受け止めていく</b> 」
		着替え		・トイレ前後、午睡前の着替えの時:子ども『やって・できない』 → 保育者【自分でやらなきゃだめ】 → 保育者『○○ちゃんも自分でやっているよ、お昼寝の歌を歌っちゃうよ』と、すぐに注意するのではなく優しく教えている。 「 <b>注意する時は否定の言葉ではなく、頑張ろうとする意欲が出るような言葉がけをする</b> 」
10	保育方法 (読み聞かせ方)	絵本の読み聞かせ	保育者	・絵本の場面によって声の大きさや表情を変化させる事によって、子ども達はその世界に没入していた。 「 <b>絵本の読み聞かせという短い時間の活動でも多くの工夫が必要である</b> 」
	保護者 対応	信頼関係	自己	・4月初めに比べて保護者とのコミュニケーションを多くとる事ができるようになったが、相談や話しかけていく保育士は限られている。 「 <b>普段の会話だけでは信頼関係が築けない。あまり関わりの少ない保護者とも話すように心がける</b> 」
11	子ども対応	トイレトレーニング	自己	・トイレの時間何度も言葉がけをしたが嫌がって泣いてしまう。 ・一度落ち着かせようと背中をさすり、子どもの思いを受け止めて見た結果、少しずつ自分で行こうとするようになる。 「 <b>嫌がる時はまず子どもの気持ちを受け入れる事が大切である</b> 」
	保育方法 (保育の進め方)	異年齢児保育の取り組み(ゲーム)		・ゲームを取り入れた公開保育(対象以上児約60名、時間30分間) ・進め方を自分なりに準備していたが、実際保育をしてみた結果10分程で子どもの集中力が欠けてしまい、自分自身がハニックになってしまった。 「 <b>約束事やルールを伝えたり、予想される子どもの姿を考え活動に工夫が必要である。運営など異年齢の関わり方を知っておく事が必要である</b> 」

実践記録E

月	内容	課題(疑問点)	解決対象	学んだこと・気付かされたこと
8	保育方法 (指導者の役割)	公開保育 (運動会の準備体操)	保育者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達の準備体操を見直す。(手本となる動きであるか、子ども達に伝わる声掛けであるか、体操が遊戯になっていないか)</li> <li>・具体的に一つひとつの動作を伝えメリハリのあるきびきびした動作を実践する。</li> <li>・動作と同時進行の言葉掛けではワテンボ遅れた動作となり、覚えにくい。</li> <li>・曲と振り付けを完璧に覚える。</li> </ul> <p><b>「子ども達にとって分かりやすい動き、次の動作を予告する言葉掛けをするには振り付けを完璧に自分のものとする」</b></p>
	保育方法 (危機管理と内容の充実)	ボール遊び (保育士として大切な事)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・徹底した健康管理・環境管理を行う。(ぎょう虫検査、げんきカードの記入確認、プール点検、水質検査等)</li> <li>・危険を予測した声掛けと何故いけないかを理解させる。(プールサイドは走らない、階段はゆっくり上がり降りする、水の中で友達とふざけ合わない、自分勝手な行動をしないなど)</li> <li>・水遊びの楽しさ (流れるプール作り、速く流れる方法、水の叩き方によって違いを知るなど)</li> </ul> <p><b>「安全の中で行われる環境作りが保育士の重要な責任のある仕事の一つである」</b>  <b>「プールの楽しさを伝える様々な活動方法を考える」</b></p>
9	保育方法 (フリーの役割)	運動会の準備	保育者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスの練習から衣装の準備、グラウンドの線引き、器具の配置場所などを覚え、スムーズな進行のための補助としての役割を果たす。</li> <li>・フリーが誰よりも早く動き、走ってライン引きや器具出しに回ることによって時間の短縮と意欲を感じさせることができる。とアドバイスを受ける。(手順の変更があった場合はメモを逐次取り、完全に覚え込むことによって自信を持って動くこともできる。更にやる気生まれ、楽しむ余裕ができた)</li> </ul> <p><b>「少しずつでも経験の中で自分の知識を増やしていく」</b></p>
10	保育方法 (職員間の連携)	運動会の準備	保育者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもへの演技指導、幼年体育の指導、入場門の製作、道具の準備、衣装作り、運動会の為に何度も行った打ち合わせなど全て重要な活動であった。</li> <li>・運動会の前日と当日の準備にあたり、自分の役割だけではなく他の準備にも走り回りながら準備している先輩の保育者を見て、&lt;とにかく動こう&gt;・&lt;協力できることは自分のやるべきこと&gt;と思う。</li> </ul> <p><b>「運動会という行事を通して職員間の連携、協力」という言葉の重みを痛感する。日常生活に活かしたい」</b></p>
	保育方法 (安全指導)	遠足		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に子ども達にバスや水族館内でのマナーを話していたこともあって子ども同士注意しあっている姿があった。それでも子ども達の近くにいる安全にいつでも対応できるように目配りしておく。(フリーとして池や段差に対する配慮や先回りの行動が出来なかった)</li> <li>・時々的人数確認、一人ひとりの体調管理など怪我なく過ごせる事が大切と感じる。</li> </ul> <p><b>「遠足で学んだことを日常の遊びの時間に生かす。禁止をすることは簡単であるが、何故いけないかを理解させていきたい」</b></p>
11	子ども対応	公開保育参観(3歳児)	保育者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市全体公開保育：年少、友達との関わりが次第に生まれ集団遊びやごっこ遊びを取り入れた保育、子ども達の様子を見て臨機応変に導入の部分を省いていた、個人差の大きい3歳児の保育を穏やかに進められており自分の保育と比較する事ができた。</li> <li>・全体の意見交換：個性の強い子ども同士トラブルが起きやすいが、そのトラブルを聞き流す事なく時間をかけたり周りの子ども引き込んで話す機会も必要と言う意見があった。</li> </ul> <p><b>「自分の勝手な判断で小さなトラブルを聞き流していたが、今後は向き合うように心掛けたい」</b></p>
		自ら保育を楽しむ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足や外遊びなど子どもと一緒に楽しんでいる。(アシカショー、縄跳び、フープ遊び、ドッジボール、集団遊び等)</li> <li>・保育士の声のトーンで子どもの楽しさを伝える事ができる。</li> </ul> <p><b>「自ら子ども達のムードメーカーになるよう実践してみたい」</b></p>
		喧嘩の対応	自己	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びの時間、2人の子どものトラブルに対応する。泣いている子に泣かせた子が謝る事は「謝りなさい」と言ったら終わってしまうが、泣かせた理由を聞かないまま終わらせるのは『流す』ことになる。</li> </ul> <p><b>「日常の保育の中で学んだことを実践してみる」</b></p>
		異年齢児保育の取り組み (絵本読みとクイズ)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常気をつけていることは、自らのテンションを高めに持つこと。(保護者への挨拶、朝の体操、子どもと関わる時など)</li> <li>・30分間の公開保育：問いかけに対する子どもの反応が楽しく、緊張が何処かへとんでしまった。</li> <li>・声のトーンを上下させる、急に大きく明るくするなど変化をさせる事によって保育士の話に耳を傾けた。</li> </ul> <p><b>「声のトーンや大きさは子どもに大きく影響する事を実感させてくれた」</b></p>

## 実践記録F

月	内容	課題(疑問点)	解決対象	学んだこと・気付かされたこと
8	保育方法 (プール遊び)	水遊びの工夫(1歳児)	保育者	・プール遊びを喜び子、怖がる子、嫌がる子に対し、楽しめる工夫として手作りおもちゃを用意し興味を持たせる た事によって、遊びを楽しむ姿が見られた。 <b>「どんな遊びでも環境や内容を工夫することによって、遊びの中で子ども達の成長を見ることができる」</b>
	子ども対応	活動前の約束		・遊び方が良くない時に注意する必要もあるが、事前に約束することでく何故注意を受けたのか>くどうすればよかったのか>考えたり理解しやすかったり出来ると思い、遅番の時行う。 ・子ども達同士で気付き、教え合い、直す姿が見られた。また、約束を意識し直し同じことの繰り返しが減る。 <b>「あらかじめ約束をしておくことで、子ども達が安全に安心して遊べる環境が作れる」</b>
9	子ども対応	一人ひとりを大切に した保育	自己	・以上児における活動、45分間での出来事 ・一人一人の子どもに声を傾けることができず、いい加減に対応してしまう。自分にとっては何人もの子ども の声の一つであるが、子どもにとっては自分一人しかいない先生でもあると感じる。 <b>「一人ひとりの気持ちや声を受け止めることにより、子どもは保育者の声にも耳を傾け信頼関係が生まれる」</b>
	子ども対応 (危機管理)	噛みつき対応	保育者	・子ども同士の関わりも増えてきてトラブルも多い。上手く話せない子に噛みつきが見られ、噛みつかれた後に 気付くことが多い。 ・未然に防ぐことができる配慮(噛みつきの多い子に注目し全体が見える位置にいる) <b>「子どもが一日安全に過ごせ、保護者が安心して預けることのできる保育をする」</b>
10	保育方法 (指導者の 役割)	運動会の準備体操	仲間	・新任保育士3人で運動会の準備体操を担当する事になった。1回目の練習では、ただ真似をするだけでダラダラ となんとなく体を動かしていた。出てくる動きのねらい、伝える方法など指導の仕方話し合い実践する。→分 かりやすい言葉がけや大きな動きをすることによって子ども達の姿が変化していった。 <b>「子ども達は目で見て、言葉を聞いて吸収していくため、保育士の言葉や見せ方に大きな影響力をもつ」</b>
	保育方法 (読み聞か せ方)	言葉の発達	保育者	・月齢や一人ひとりの成長の差が大きい。特に言葉の発達の差が大きいクラスである。複数担任で保育士それぞ れの読み方があり参考になる。(絵本の中に出てくる言葉を子ども達と一緒に話す読み方によって、子ども自身で話 せるようになってきた) <b>「絵本は言葉の発達を促し、読み方一つで言葉を多く引き出すことができる。この年齢の言葉の吸収力もすぐ く、普段の何気ない会話も大切にしたい」</b>
11	子ども対応	信頼関係の構築	保育者	・新しく入所してきた子どもに早く慣れて欲しいという気持ちが強く出てしまい、反対に拒否をされてしまった。 無理にさせようとせず、落ち着くような援助を試みたところ徐々に笑顔が見られるようになってきた。 <b>「子どもとの信頼関係を作り上げるためには子どもの様子や状況を見て気持ちを受け止める事から始める」</b>
	保育方法 (保育の進 め方)	異年齢児保育の取組 み(ゲーム)	自己	・集団遊び(○△□鬼ごっこ)を取り入れた公開保育(対象以上児約50名、時間30分間) ・ゲームの内容が簡単であったため、まとまって遊ぶ事ができたりルールを理解する事ができた。しかし、同じ事 の繰り返しで3歳児の集中力が切れてしまう子どもがいた。 <b>「年齢を考慮して遊びの中に休息を取り入れたりメリハリをつけるなど最後まで遊びが充実できるようにする」</b>

表3 1年間の研修結果

研修内容	研修結果
職務姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に時間を意識して素早く行動するように心がけるようになった。</li> <li>・実習生とは違い自分の行動に責任を持って保育するようになった。</li> <li>・自分のクラスだけ関わるのではなく、他のクラスの子ども達とも積極的に関わるようになった。</li> <li>・最初は遠慮して解らないことを聞く事ができなかったが、自分の力も付かないと思い、先輩の保育士に積極的に聞くようにした結果親切に的確なアドバイスをもらう。日頃の先輩の姿からも多く学ぶ事ができた。これからも積極的に学ぶ姿勢を大切に、いい加減に終わらすことをしない。</li> <li>・朝の受け入れの際には、園児の健康状態を把握することを心がけるようにした。</li> <li>・掃除、後片付け、雑用など率先して行うようになった。</li> <li>・毎日トイレや水周りは不潔にならないように掃除をこまめに行う。便器の汚れ、トイレトペーパーの補充、スリッパの整頓など常に気をつけた。</li> <li>・遅番での遊びが楽しく行えるように玩具・絵本、広告など整理や補充をおこなった。</li> </ul>
子ども対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに挨拶する時は、名前を呼んでその子の目を見て挨拶するようになった。</li> <li>・全体を見ながらも、子ども一人ひとりと関わりを大切に愛情を持って接するようになった。</li> <li>・常に多くの子どもと関わりを持ち、集団を意識した保育を心がけるようになった。</li> <li>・子ども達の性格などを理解したうえでその子どもにあった褒め方・叱り方などを考えて行うようになった。</li> <li>・子ども同士で喧嘩した時は、ただ叱るだけではなく双方の話をよく聞き、子ども達の思いを受け止める事をするようになった。</li> <li>・子ども達を叱るだけではなく、良いところやできた事などを認め、子ども達を褒めて伸ばすように心掛けて保育するようになった。</li> <li>・年長児の喧嘩仲裁に入る場面では、お互い思っていることを言い合いながらも周りの子ども達も巻き込みながら「こんなルールを作ったら面白いかもしれんね」と自分たちで解決する姿が見られた。最後まで話が進み解決すると「先生ありがとうね」と言って自分たちの遊びを再開していた。子ども達の「ありがとう」と言う一言で改めて子ども達の成長を少しでも手助けできるように、一人ひとり成長を見ておく事やどんな遊びをしているか把握しておく事、先輩の保育士の保育をよく見てメモし実践できるようにしたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレや衣服の着脱など嫌がっている時は無理にさせるのではなく、まず気持ちを受け止め、一緒に誘いながら少しずつ出来るようにしていった。</li> <li>・子どもを見ている時、どっしり座っているのではなく座り方を指導されてから子ども達のちょっとした喧嘩や怪我などを未然に防げるようになった。</li> <li>・やってはいけないことを子ども達に伝える時、関わりの中で気持ちを受け止めたり、何故いけないのかわかりやすく話すことで理解した。</li> <li>・特定の子もただと関わるのではなく、苦手意識を持たずに平等に関わることでその子の良さを見つけた。進んでコミュニケーションをとる事で信頼関係を持つ事ができた。</li> <li>・ハサミなど危険物を利用した製作では、子どもの行動を先読みし安全確認をしたり、約束を理解させながら使うように心がけた。</li> <li>・休憩交代の時などは必ず人数確認を行う。クラスに戻る際には所内の裏などで遊んでいる子がいないか確認するようになった。</li> </ul>
障害児対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見ているだけではなく、できることを見つけ援助を考えるようにした。</li> <li>・集団生活において他の子どもに影響する場合には引き離すようにして対応していく。</li> <li>・「障害」についての知識、その子に合った指導方法などを常に考えながら、その子どもができる事のできる所までやっていくようにするために、毎日の様子を見ながら声をかけたり、一緒に活動を行うようにした。毎日の様子を書いたり、何故パニックを起こしたのかを考えたり、担任の保育士と接し方を話したりしながら学んだ。まだまだ、その子に合った保育ができたとは言えないが、大学で学んだ知識や施設実習で学んだ対応方法などを再確認する事ができた。さらに、様々な資料や日頃の経験から今後の支援について考えていく事ができ、障害について少し知識が身に付いた。</li> </ul>
保護者対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所での様子を少しでも保護者に話す事によって、コミュニケーションを多く取れるようになった。</li> <li>・挨拶する時は相手の顔を見て、笑顔と明るい元気な声と温かさを持って挨拶をした。</li> <li>・初めは挨拶することしかできなかったが、次第に積極的に自分から話しかけられるようになった。</li> <li>・一言でも毎日言葉を交わすことを積み重ねることによって、信頼関係を築くことができる。</li> <li>・行事前やインフルエンザの対応など掲示板の内容を常に頭に入れて、いつ聞かれてもよいようにしていった。</li> <li>・質問された時、自己判断ではなく園長・主任・担任の先生に必ず確認報告をするようになった。</li> </ul>
職務内容 [危機管理]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊ぶ前に危険なものがないか確認したり、危険な遊びをしないように約束するなどした。</li> <li>・噛み付きや怪我などしないように、常に全体を見渡すなど先を見通した保育をするように心がけた。</li> <li>・滑り台など危険と思われるところには常に近くに見守るようにした。</li> <li>・遅番や休憩交代の時間は怪我の無いよう見守り安全管理を怠らないよう配慮する。万が一怪我があった場合には報告を怠らず怪我報告に記入し今後の保育に活かす。</li> <li>・子ども達が安全に遊べるように事前に約束事などをし、子ども達同士でも気をつけられるようにした。</li> <li>・薬の扱いについては十分に管理するようにした。</li> <li>・防犯訓練では不審者になり、訓練ができるように大げさの演技をした。所内に不審者が侵入してきた場合の避難や待機方法を学んだ。</li> <li>・避難訓練では、以上児・未満児の避難経路を確認し、子どもが残っていないか隅々まで見た。保育士が真剣にやる事で子ども達にも緊張感を与え、真面目に取り組めた。</li> </ul>
[外遊び]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊ぶ場所が広いため、怪我など未然に防ぐために部屋以上に広い視野を持ち子どもと関わるようにした。</li> </ul>
[食育]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達を見ているだけではなく、遊びを提供したり一緒に遊びコミュニケーションをとった。</li> <li>・給食やおやつ前は保育士・子ども達の手洗いを徹底して行うようにした。</li> <li>・アレルギーの子には、保護者と連絡を密にし、食べられない物を把握し気をつけて配膳したり、誤って食べないように椅子を別にするなどして工夫した。</li> <li>・夏、食中毒警報が出た時は特に注意し、皿に盛り付けた食べ物やすぐに配膳するようにした。</li> <li>・子どもにとって食事はとても大切であると同時におやつも食事の一つである事を理解した。</li> <li>・「命あるものを美味しく頂くことに感謝する」という意味で全員の子どもが挨拶できるようにした。</li> </ul>
[朝の会体操]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操、踊り、歌など子ども達の手本となるように意識して動くようになった。</li> <li>・司会をする時、話し言葉にならないように気をつけた。</li> <li>・体操の時、体を動かさず体操の音楽を歌っている子どもには体操に集中するように呼びかけ意識付けをした。</li> </ul>
[研修保育]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人保育士としての3回の公開保育を通して、失敗を恐れず堂々と保育し失敗をバネに次に活かす姿勢を大切にしたい。3回の保育で指導案の書き方を理解する事ができた。（1回目：予想していなかった子どもの動きがあり焦る自分がある。2回目：事前に指導案に添って保育をしてみる事で子どもの姿や援助方法などイメージが膨らむ。3回目：何度も繰り返し流れを確認する事で指導案も内容的に濃いものになった。）</li> <li>・子ども達が飽きないように手遊びや言葉かけなどを工夫するようになった。</li> </ul>



[土曜日保育]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム遊びをする時は事前に約束事やルールを考えておきわかり易く伝えたり、子ども達の予想される活動を明確にしておく事が大切であると理解した。</li> <li>・全年齢児と一緒に保育するため、異年齢児の関わり方や発達段階なども子どもの姿を通して学べた。</li> <li>・コップや砂場の消毒、玄関や各部屋の掃除など普段の保育でできない所での仕事を積極的にした。</li> </ul>
[行事]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会やひな祭り会の行事が研究発表の場となる為、全体構成を頭に入れて責任を持って取り組んだ。翌年の事も踏まえ、次に自分が担任になった時にどう動くかを考えて行動するようにした。</li> </ul>
運動会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰よりも早く動くには何が必要か。先読み行動ができるなった事で、自分の行動に自信が持てるようになった。そして、何よりも早く動く事が楽しいと感じられるようになった。</li> </ul>
おひさまっこ発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰かがやってくれるから自分はやらなくてもよい」という考えではなく、自分がやることでそれが少しでも周りの役に立つのであればそれは自分のやるべき事だと思った。運動会を通して、「連携・協力」という言葉を考えさせられた。自分一人ではできない事も、みんなで協力する事でできるものだと感じた。日常の活動においても職員間の連携を大切にしていきたい。</li> <li>・「自分が誰よりも早く行動しよう」という思いで小道具、大道具の配置や楽器の出し入れのタイミングなど細かく用紙に記録した。全体練習では自分の精一杯の動きで補助の参加ができた。それが自分の自信とする事ができた。自分の仕事で精一杯になってしまっていた自分を反省し、周りを見る余裕と新たな役割を見つける事を学んだ。</li> </ul>

保育要録など小学校への連続性、障害者・気になる子への対応をあげ、理解不足の項目として今後の課題となっている。

#### 4) 今後の課題（表5）

1年間過ぎた6人の保育者は自ら多くの事を学んだ。しかし、一方では子ども・保護者・職員に対して多くの課題も出てきていることも自覚している。まだまだ頭だけで考え行動が伴っていないこと、様々な場面に臨機応変に対応すること、先を見通した保育ができるようにすることなどをあげている。今後、より一層先輩の保育士の保育力を吸収しながらも、自分の個性を取り入れた保育を2年目に向けて行うことを課題としてあげている。

## 4 考察

保育者は意図的・計画的なねらいに沿った保育を実践する事で子ども達を見る目がより鮮明になり、保育者としてのあり方がより一層明確化され、新たな課題も生まれている事をこの1年間の実践記録から読み取ることができた。

全国保育士会がまとめた「保育士の研修体系～保育士の階層別に求められる専門性～」の中で階層別に期待される組織上の役割として、初任者を次のように定義づけをしている。<sup>(注4)</sup>

- ・「子どもの最善の利益確保」の理念を理解し、基礎的な保育実践ができる。
- ・チームによる保育のなかでの自分の役割を理解し、指示・助言を受けながら日常的業務を実施する

また、初任者研修の目的として次のような課題を投げかけている。

- ・社会人として必要なマナーなどのスキルを身につける。
- ・当該保育所での保育理念等を理解する。
- ・子どもや保護者を理解し、保育の実践力をつける。

この初任者向けの1年間の園内研修は、この研修体系に沿った研修でもある。実態に即した具体性のある研修内容で、即実践ができ理解しやすい。新任保育者は「保育士としての資質向上を自ら図る」ことを研修理念として実践してきた。子どもや保護者との関わりも研修やリーダー的保育者の姿から学び、その場その場の保育活動のなかで試行錯誤しながらも、自ら働きかける事

表4 自己評価における得点化された研修内容項目

評価	研修項目	評価	研修項目
18 (25 項目)	8 園児同士、子どもと保育士との信頼関係	16 (17 項目)	40 園児がして欲しいことを最後まで聞く
	9 集団の中で個の成長を促す遊びの展開		60 人権尊重と尊敬する心の育成
	10 同年齢の基準ではなく発達段階を踏まえる		61 保育理念・方針を保護者に理解を求める
	11 発達上課題ある園児に応じた援助と環境		65 園児の興味を踏まえた指導計画の作成
	12 生命の保持と情緒の安定を図る援助		67 個人記録で発達過程を把握する
	13 心情、意欲、態度を身につける援助		78 玩具・遊具の衛生・清潔の徹底
	17 園児との温かなやりとりやスキンシップ		85 偏食や食べ残しの指導方法
	23 危険に気づいた行動、安全についての心構え		86 食べ物が身体に及ぼす働きを理解
	24 園児が友達と過ごす楽しさを感じる保育		87 食物アレルギーによる医師との連携及び除去食
	27 園児が善悪の判断と考えて行動できる保育	15 (5項 目)	92 保護者との懇談内容の守秘義務
	28 困っている園児の事を心配した思いやり		93 地域「すくすく」・一時保育への理解
	29 共同の道具や用具を大切に使う体験		25 つまずき、喧嘩など園児の発達上必要な対応
	41 園児なりの言葉で表現する機会を持つ		46 歌・リズム・楽器を楽しむ
	42 絵本・紙芝居等から言葉の楽しさに気付く	14 (9項 目)	62 指導計画や実践内容を保護者に理解させる工夫
	43 絵本・紙芝居等で自ら楽しむ		97 自己評価。課題見つけと計画的研修
	45 日常的に「ごめんなさい」「ありがとう」を言う		98 子どもに影響を及ぼす自らの人間性と倫理観
	49 保育中の保育士の言葉の音量に配慮する		5 養護と保育の一体的に行う保育の理解
	52 授乳時の抱き方、目合わせ、微笑みを持って		31 外国人や高齢者など自分と異なる人の理解
	53 乳児の言葉がけに対して、ゆったりとやさしく		33 自然現象に触れ疑問点を調べたり考えたりする
	72 公開保育を通して他からの指導を受ける		59 性差別の先入観を植え付けない
	73 身体測定を行い結果を保護者に連絡する		63 保育理念から指導実践の一貫性
	74 家庭での生活状態の把握と啓発		64 養護・教育を踏まえた指導計画作成
	75 園児の健康状態の共有化		91 保護者との懇談と記録
17 (19 項目)	84 給食に関わる人に感謝		96 指導者として実習生受け入れ
	88 「いただきます」・「ごちそうさま」食に感謝		100 日頃から保育関係の情報収集
	3 保育活動における子どもの利益と人権に配慮	13 (16 項目)	4 保育のねらい・内容を保護者に説明する
	7 保育活動中、子どもの心身の状態を把握		18 「駄目・いけません」など不用意な制止言葉
	14 5領域による活動や体験が展開できる保育		19 「待ってて・後で」と言わずすぐその場で対応
	15 登園児の健康視診		21 保育活動の効果向上の為に視聴覚教材
	20 遊戯・体操など率先して身体を動かす		34 木の实やおもちゃで数量や図形に関心を持つ
	26 友達と協力してやり遂げる達成感		35 標識や文字に関心を持ち、意味や役割を理解
	30 当番活動やお手伝いなど役立つ喜び体験		39 正しく美しい日本語で園児に話す
	47 園児の作品展示方法の理解		44 文字や記号を使って楽しく遊ぶ
	50 屋外活動に合わせた遊具		48 感動したことを絵や言葉で表現する
	51 自由に遊べる時間帯の指導と監視		58 障害児の保護者の信頼
	54 複数担任は連携及び全員で見守る体制作り		66 指導計画は家庭や地域社会を配慮した内容
	71 園児の行動、エピソードを記録		70 自分の保育課題を客観的に把握
	77 手洗い場、トイレの清潔の徹底	12 (3項 目)	76 疾患児は医師の指導を受けた指導
	79 危険な場所での遊びの認識と指導		80 交通安全の習慣指導
	83 不審者侵入したときの自分の行動確認		81 虐待の早期発見に対する重要性理解
	89 送迎時における保護者との言葉がけ	11 (3項 目)	82 避難訓練の重要性と方法の理解
	90 保護者の心配事、悩みの受け入れ		55 障害児の個別指導
	95 保育所の周辺との良好関係。日常的挨拶		56 障害児と健常児との交流・理解
	99 お互いに切磋琢磨し、より良い保育を目指す		57 障害児の医療専門機関からの助言・指導
	1 児童福祉法の保育所の役割	10 7 6	36 旗や地図から外国に興味や関心を持つ
	2 保育所の保育理念。方針と目標の理解		37 社会の重大な出来事の説明
	6 発達の特性把握、連続性を配慮した保育		94 虐待情報を関係機関に紹介し連携をとる
	16 触れたりする物や場所の衛生的環境		38 言葉の遅れを気にする保護者対応
	22 手洗いの励行など清潔習慣の育成	7 6	69 保育所保育要録の記載方法
	32 自然の美しさや不思議さに気付く工夫		68 小学校を基盤とした見通し

表5 今後の課題

保育者	課題内容 (◆1年間の成果)
<b>A</b> [子ども]	◆笑顔で明るく、全ての子どもに愛情を持って接する。 ◆1歳児特徴（噛みつき、引っかきが多い年齢）を確認して保育する。 ・余裕を持った行動と保育に心がける、 ・主担任と相談しながら、日々の保育の工夫を週案に反映させる。 ・怪我が無いよう常に全体を意識した保育を心がける。 ・いろいろな病気にかかったり移りやすい年齢であるため、手洗いや消毒を徹底させる。 ・安全で安心して過ごすことが出来るような環境作りに心掛ける
<b>B</b> [子ども]       [保護者]	◆成果と共に多くの課題もでてくる。 ・事前のピアノ練習や製作の準備、手遊びのレパートリーを増やす。 ・喧嘩や勝手な行動などわがままだと決め付ける事がある。どんな時でも子どもの気持ちを聞き、受け入れ、年齢にあわせた指導ができるように実践を繰り返したり、先輩保育士や保育資料からも学ぶ。 ・指導案を作成していく中で、子ども達の姿が把握しきれていない点や年長児に対してプレッシャーをかけすぎた内容であったりした。他の保育者の指導案を見たり公開保育に参加するなどして学ぶ。 ・危険というのはその日によって違う事もあると同時に臨機応変に対応していかなければならない。遊び場所でも危険のないように周りの環境を整える。 ・言葉で上手く表現ができない子ども達なので、保育士が気持ちを読み取り声をかけていかなければならない。そのために、多くの子ども達と関わったり先輩の保育士の関わり方をよく見て実践できるように心がける。 ・保護者との関わりを大切にし、家庭と保育所での子どもの姿を把握しながら対応する。まだまだ考えるだけで行動が伴わず、話し方も学んで生きたい。
<b>C</b> [子ども]	◆積極的に取り組む姿勢を学ぶ。 ・フリーとしての役割をこなす ・様々なクラスに入り、先輩の保育を見て学びことで自分の保育能力を高める。 ・全年齢児の子ども達の姿を見ながら、更に保育士として成長する。
<b>D</b> [子ども]	◆子どもや保護者との関わり方を学ぶ。 ◆朝の司会を通して堂々と子どもの前で話す事ができる。 ・どんな時にでも自信を持って対応したりその場にあった言葉がけができるようにする。 ・先を見通した対応能力をつける。
<b>E</b> [子ども]  [保護者] [職員]	◆笑顔で明るく元気よく、素早い行動をする。 ◆1年間多くのことを学び自分の自信に繋がる。 ・自分本位に子どもに押し付けるような活動はしないように子どもの立場に立って気持ちを受け止め、成長を感じたい。（子どもが不安にならないようにゆっくり信頼関係を築いていく） ・「いろいろな事をこの先生に話したい」と思われるようにコミュニケーションを大切に声掛けを行う。 ・同じ志を持った仲間として協力・連携を密にし、困った時は気軽に話ができる関係を築いていく。 ・先輩の保育を完璧に真似るのではなく自分の個性を取り入れながら更に保育を進める。
<b>F</b> [子ども]	◆初めて見て、聞いて学び、実践した結果、課題もでてくる。 ◆研修を通し意識が高まる。 ・周りの意見を取り入れながら、積極的に自分で考えた保育を展開する。 ・様々な場面に対応できる保育士を目指す。

で自分自身に手ごたえを感じていた。このような日々の繰り返しが少しずつ保育者としての力量形成に繋がっている。子ども対応における喧嘩の仲裁では、お互いの言い分を聞きながら子ども同士で新たなルール作りに発展していった。さらに、「ありがとう」の感謝の声を聞く事もできた。保育方法では、集中力を高める為に教材研究の大切さを学び、指導方法として言葉がけに対する声のトーンなどにも意識する事を学んだ。保護者対応では、信頼関係を築くために笑顔で話したり、親身になって聞いたり、遅番での子どもの様子を話すように心がけた。新任保育者にとってこの学びは、実践から得た確かなものであり、今後の保育の原点になると思われる。高濱は保育者の熟達化の中で、幼児の理解や指導方法についての知識の獲得が必要条件とするならば、経験によってそれらの豊富な知識が構造化される事が十分条件としている。<sup>(注5)</sup> 今後、新任保育者は多くの経験を積み重ねながらもその場その場の対応の仕方を選び取っていく力量が求められる。

園長の責任の下に、保育所保育指針から100項目の研修内容が示され、それに基づいて実施されたOJT研修：「信頼される保育士をめざして」は、意義のある研修である。新任保育者にとって保育に対する意欲や力量を深めるための最初の学びでもあり、「組織内（職場内）社会化」を図るための研修でもある。<sup>(注6)</sup> そして、この取り組みは新任保育者だけではなく保育所全体の取り組みでもある。保育の形態として、特に未満児クラスにおいては複数の担任で担当したり（チームティ칭）、異年齢児保育としての縦割り保育、特別保育として長時間・延長保育、フリー担当や休憩時間の交代など様々である。このような活動の中で子どもや保育者との多種多様な関わりがあり、常に保育者同士の連携が求められる。保育所としての組織の中で、日々の保育の取り組みを丁寧に捉え、自分の問題として取り組んでいる。このように地道な研修を継続していく事によって、新任保育者だけではなく保育所全体の資質向上も図ることができる。また、研修の場だけではなく、日々の保育の中での学びを導く園長や主任保育士をはじめとする経験者のファシリテーターとしての役割の重要性を再認識する事ができた。

## 5 今後の課題

この研究は、『保育者を支援するよりよい研修から』の一連の研究である。養成校を卒業して保育者となるキャリア移行期、保育者として1年目の新任保育者に焦点をあて研究してきた。それぞれの自己評価として、1年間の研修実践報告や得点化された研修内容項目を検討してみた結果、多くの内容を学び日常の保育に活かしていったことが理解できる。6名の新人は2年目に向け、自分の新たな課題と自分自身の個性を活かした保育に取り組んでいる。今日、より複雑で様々な保育状況の中で、園全体としての取り組みや個々のクラス運営にも一層の工夫と連携が求められている。そのような状況の中で、6名の保育者が少しずつ自分の活動の視野を広げ、見通しを持って保育活動にあたる2年目の成長の姿を追う事によって1年目の研修の意義がより一層明らかになるとと思われる。

また、幼保一体化を推し進めていく新しい子ども・子育て新システム制度が出され、幼保一体化の流れの中で経験年数別による保育者の質の向上を考えていかなければならない。

## 注

- 1) 仲野悦子・田中まさ子・金武宏泰 『新任保育者に対する初期の園内研修の取り組み』 岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要第42集 2010  
第1期「保育士としての基礎・基本的知識や考え方を理解する」の具体的な研修内容や保育者の実践報告書

を取り上げ考察した。保育に対する意欲や力量を深めるための最初の学びであり、短時間の中で計画的に保育所の実態に沿った研修内容で行い、保育者の成長を促した。

2) 常勤職員12名の年代別・保育者経験年数別の内訳

年代：新任保育者；6名、20代保育士；1名、30代保育士；1名、40代保育士；3名、50代保育士；1名。  
経験年数0年；6名、5年未満；2人、10年未満；2人、10年以上；2人。

3) A社会福祉法人に所属する3園における公開保育の実施。

常勤保育士が園内研修のテーマに沿った公開保育を、原則的にそれぞれ月1回、年齢別ごとに実施している。  
3園の関係する保育士がそこに参加し、短時間であるが実施された保育に対して反省会を行うことにより資質向上を図っている。

4) 全国保育士会「保育士の研修体系」検討特別委員会 「保育士の研修体系～保育士の階層別に求められる専門性～」 p6

保育士の資質向上の為の職場研修として、OJT（職務を通じての研修）・OFF-JT（職務を離れての研修）・SDS（自己啓発援助制度）の3つの形態をあげている。初任者、中堅職員、リーダー的職員、主任保育士等管理的職員に対して階層別に役割や研修目的を検討し、それぞれの専門性から習得すべき知識や技術を踏まえた研修体系を構築した。

5) 高濱祐子 『保育者としての成長プロセス』 保育者の熟達化 p242

幼児理解や指導方法についての知識が一定量になるには5年前後の経験が必要とされるが、経験による知識の増加と問題解決に対して適切な対応策や手法など相互に結び付けて多面的に考慮される事はパラレルな関係であり、保育者の経験の内容と仕方によって知識の構造化は異なる、としている。そして、経験年数による保育者の発達を次のようにも指摘している。 P19

- ・ほとほとどの経験の長さが質の高い保育や子どものポジティブな発達と関連していた。
- ・経験年数の蓄積による変化とともに、経験の質や内容も考慮されなければならない。
- ・経験によって熟達する面だけが強調されるが一方で衰退したり欠落する面があること、保育者の個人差が存在することなども予測される。

6) 田中まさ子・仲野悦子 『保育者となる学生のキャリア移行に関する一考察』

岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要第41集 2009

園長の「園の方針や雰囲気慣れ親しんで欲しい」という要望に対して、新任者の社会化を促進するためにメンタリング等の仕組みの取り組みを提案した。

## 参考文献

- ・厚生労働省告示第141号 『保育所保育指針』 フレーベル館 2008
- ・高濱祐子著 『保育者としての成長プロセス』 風間書房 2008
- ・「保育士の研修体系」検討特別委員会 『保育士の研修体系』 全国社会福祉協議会 全国保育士会 2007
- ・田中まさ子・仲野悦子著 『保育者となる学生のキャリア移行に関する一考察』 岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要第41集 2009
- ・仲野悦子・田中まさ子著 『語りから捉えた新任保育者の成長の契機』 岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要第41集 2009

## 謝 辞

この研究に当たり、新任保育士の先生方に貴重な報告を頂きました。心より感謝申し上げます。